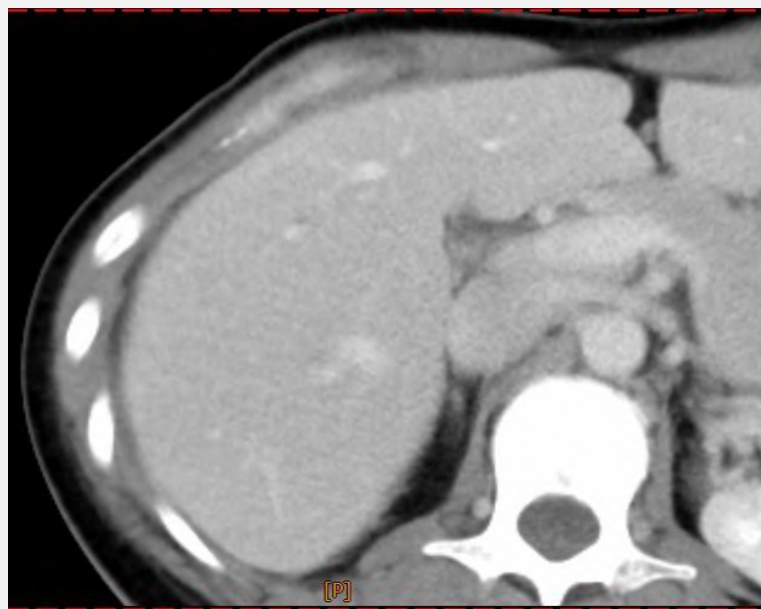
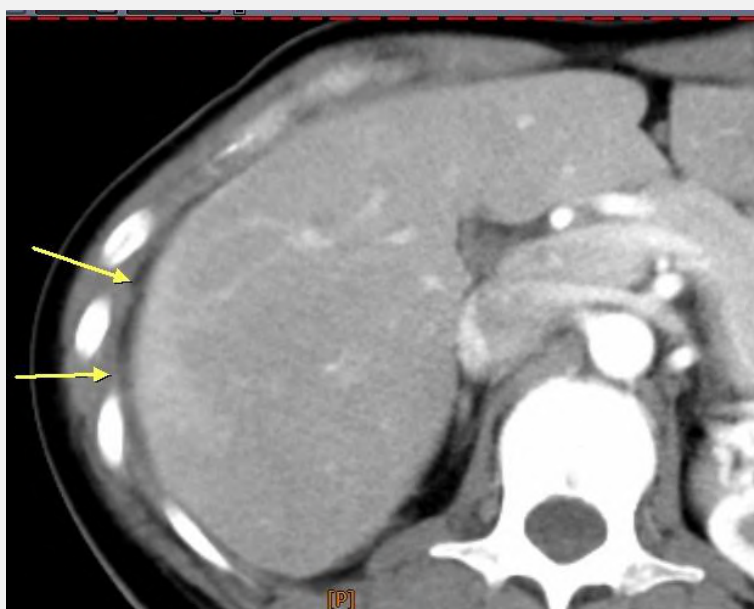


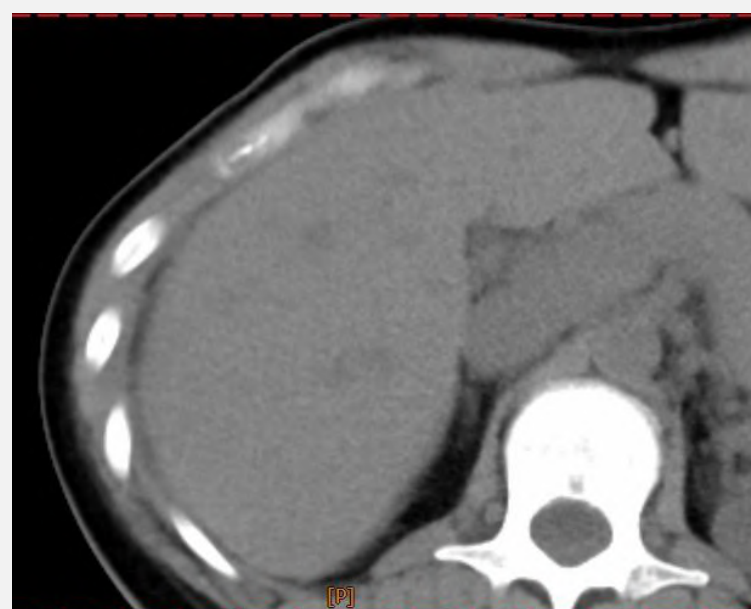
Fitz-Hugh-Curtis症候群、肝周囲炎



単純CT



造影CT早期相



造影CT遅延相

症例

40歳代、女性。

不正出血後の右側腹部・右季肋部・臍周囲痛を主訴にFitz-Hugh-Curtis症候群を疑われて紹介され CT検査を施行しました。

CT検査所見

ダイナミックスタディの早期に肝表面の濃染を認め、平衡相では不明瞭となりました。

Fitz-Hugh-Curtis症候群（FHCS）

Fitz-Hugh-Curtis症候群は骨盤腹膜炎が上行性に広がり*、肝周囲炎を生じ、右主体の腹痛を起こす状態です（クラミジアや淋菌などの性感染症が多く、右傍結腸溝が主な経路です）。

CTの所見は造影後早期に生じる肝表面の造影効果で、その後の撮影では確認できなくなります。

生殖年齢の女性では急性発症の右腹痛では原因として考慮すべき疾患のひとつとされます。若年の女性が多いため、被曝を考えた撮影が必要です。当院での診察時にも考慮しますが、Fitz-Hugh-Curtis症候群（もしくは肝周囲炎）を疑うと記載いただければ、造影後早期相の撮影を積極的に行います。

なお肝表面の造影効果はFitz-Hugh-Curtis症候群に特異的ではなく、肝臓周囲の腹膜炎で生じ、上部消化管穿孔、結核性腹膜炎などでもみられます。

ご予約は**022-273-3141（検査予約直通）**まで

※医療機関様の画像検査ご依頼専用回線です
（検査の適応についてのお問い合わせもこちらでお受けしています）

📄 <https://www.seiryu.or.jp>
📞 980-0801
宮城県仙台市青葉区木町通2-4-45
☎ 022-273-3533

仙台星陵